

十日町でCDデビュー

越後妻有文化ホール

音響評価、ピアニスト・菅谷さん

初CDデビューは越後妻有文化ホールでの演奏で。福岡市を拠点に活動するピアニスト・菅谷伶子さん(42)が、レコーディングエンジニアの紹介で今年8月と11月に同文化ホールでレコーディング。全日空の搭乗B



越後妻有文化ホールでCD録音したピアニスト・菅谷さんとスタッフ関係者

GMとなるほか、来年3月にCDとして発売される。菅谷さんは「ピアノ演奏に最適のとってもいいホールです。ぜひCD発売記念演奏会を開きたいです」と話し、南国・福岡と雪国・十日町との交流の実現に胸を膨らませている。

菅谷さんは桐朋学園大学院大学を修了。世界的ピアニスト・野島稔氏のもとで研鑽を積んでいる。中学生の時は全日本学生音楽コンクール福岡大会3位、高校生の時に

ウィーン音楽コンクールで特別賞を受賞。現在、バッハやベートーベン、ピアノ協奏曲など全曲の演奏活動に取り組んでいるという。今回、菅谷さんの演奏活動が音楽評論家・小川榮太郎氏の目に留まり、同文化ホールの活用経験がある横浜のピアノレコーディング専門会社を通して十日町でのレコーディングが実現した。ピアノは年代物のスタインウェイで横浜から運び込み、8月に引き続きレコーディング。演奏はリストとブラームスの曲で合わせて75分程度という。

小川氏は「昨年2月に演奏を聞き、世界レベルのピアニストだと判断しレコーディングを勧めた」と話し、レコーディング専門会社の高木裕プロデューサーは「ピアノは百年以上前のビンテージもの。十日町のホールは音響がよくすばらしい。今後も活用していきたい」と話した。

なお、同文化ホールでのレコーディングは7月にクロアチア友好交流20周年を記念して演奏した西井葉子氏に続いてふた

『世界に通用するホール』

ピアニスト管谷怜子さんが 段十ろうでレコーディング



ピアニスト管谷さんとレコーディング関係者の皆さん

に決定。演奏に合うピアノとして110年前のスタンウェイビンテージがニューヨークから段十ろうに持ち込まれた。

高木社長は「3年前にこのホールに来て、温度変化の少なさや、他のノイズが入らないことに驚き、強く印象に残った。世界に通用するホールだ」と評価。

録音技師の酒井崇裕氏は「ピアノの音を取るマイクと、楽器としてのホールの響きをマイクで取っている」と紹介した。

管谷さんは「これまでバッハのピアノ曲全部を演奏するシリーズをやってきた。次はベートーヴェンのピアノソナタ全32曲をこのホールで録音したい。段十ろうは新しいホールで、しかも音響が良い、ここが地元であればと思うほど羨ましい」と語った。

CDは来年3月20日に発売され、全日空国際線のクラシックチャンネルで世界中の人たちに紹介される。

ろうホールの音響効果の魅力を語った。

レコーディングに至る経過は、音楽文芸評論家の小川榮太郎氏が管谷さんの才能を世界に発信したいと、CD制作を提案。ピアノプロデューサーでピアノ調律師の高木裕氏（タカギクラヴィア社長）の紹介でレコーディング会場を段十ろう

ウィーン音楽コンクールで特別賞を受賞するなど広く活躍する新進気鋭のピアニスト管谷怜子さん（福岡市出身）のデビューCDのレコーディングが十日町市の越後妻有文化ホール「段十ろう」で2日間行われた。レコーディングを終えた11月21日に開かれた記者会見で、関係者は口々に段十